

夢中熱中青春ライフ!

十二所史蹟保存顕彰会

14

「歴史を知り、今を考え、未来を望む」これはとても大事なことのように思います。ややもするとただ風化するにまかせてしまいがちな地域の歴史に目を向け、広く人々に伝え、残そうと活動している十二所史蹟保存顕彰会。理事を務める水沢文則さんから伺いました。

歴史のある町

誇りと愛郷心を

会ができたのは昭和五十五年ごろのことだったと記憶しています。現在の会員は、町内会長さんたちを含んで二十人ほどです。

十二所というのは、大変歴史のある町なんです。歴史は今の私たちと決して無縁ではありません。古い生活から一步新しい生活・社会へと変わってきたのですから、歴史を学ぶことは未来を考えることに通じることのように思います。



水沢さんは会の中核的存在です

地域の人たち、特に子供たちに史跡や先人の業績を伝え、愛郷心をもってもらいたい、誇りをもってもらいたい、てもらいたいというのでこの会がつくられたんです。

会では地域の史跡・文化財の説明板や石碑を建てたり、歴史を書いた冊子を作成したりしています。史跡についてはほしい終えたかなと思つてますから、

今度は一層歴史に興味をもつてもらうにはどうするかなんですが、今はまだ考え中です。(笑)

知ってほしい

優れた先人たち

かつて成章書院という郷校がありました。当時から十二所では非常に優秀な人材を多く輩出しています。優れた先人を知ること、子供たちの向学心が高まってくればいいですね。学校教育でもっと地域の歴史などを教える余裕があつていいように思っています。大館を良くしようといつても、自分が住んでるところのことを知らなくては愛郷心のわきようもないわけで、試験の結果という目先のことにとられすぎるよりは、いっそ大事なような気がするのですが。



会で作成した冊子と建立した碑

札幌発 → 大館着

前略

大館市民になりました

15

▽今回は水門町にお住まいの竹森誠さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

妻と二歳三カ月になる息子が一人の三人家族です。

Q・どちらから転入されましたか?

札幌市から去年の十一月に来ました。最初は谷地町にいたんですが、今年四月にここへ移ったんです。出身は私が弘前で妻は青森ですから、大館と近いんです。

Q・大館の印象はいかがでしたか?

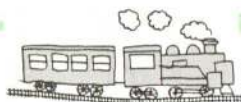
大館には仕事で三回ぐらい来たことがあったんですが、7号線がわかるという程度でした。印象というところも「何もなし」でしょうか。前が札幌でしたから、ギャップが大きいと思います。

Q・言葉などでとまどいはありませんか?

私は環境にすぐ染まってく方ですから、どこでも言葉はあまり苦労しないです。「私の方は札幌の言葉になじめなかつたんです。標準語に近いですから。こっちへ来て何となくほつとしてるんですよ」。

Q・大館にどんなことを望みますか?

第三次産業をもっと発達させた方がいいんじゃないでしょうか。地元商店との兼ね合いもあるでしょうけど、大型店なんかが入ってくるとそれだけで人が増えますよね。そして短大とか専門学校とかができて若い人も増えれば、まちは活気づくと思います。今は人が少ないせいとか、あんまりパツとしないですよ。



誠さんと弘美さん、そして和哉くんです